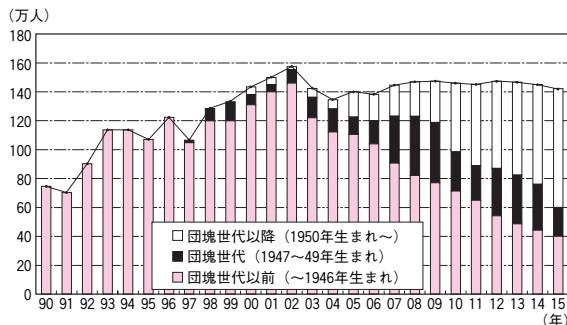


セカンドライフを応援する

「シルバー 人材センター」

高齢層の退職者数（世代別）



(注) 高齢層の退職者数は、50歳以上で労働市場から退出し非労働力化した人の数
04年までは実績値に基づく推定値、05年移行は予測値
(資料:「ニッセイ基礎研REPORT」より抜粋)



広報
市民リポーター
だより

中山 玲花さん
あやこ 紋子さん



(秋田看護福祉大学)

心配な2007年問題

私たちは秋田看護福祉大学社会福祉学科の学生です。普段は福祉の専門知識を身に付けるため、学校での学習はもちろん、施設での介護実習なども行っています。

さて、皆さんは「2007年問題」という言葉をご存知でしょうか。以前からメディアなどで取り上げられ、一度は耳にしたことのある言葉ではないでしょうか。2007年問題とは、これまでの日本経済を支えてきた、いわゆる「団塊の世代」が定年退職を迎えることにより、大量の人材や技術が失われ、そのことにより社会に大きな影響が出るかもしれないと危惧されていることです。

上のグラフをご覧ください。問題の2007年には、団塊の世代が退職する時期を迎えるため、退職者全体のうち、この世代の割合が特に多くなっています。以後、2009年まではその状態が続きますが、2010年には団塊の世代以降の割合が多くなると予測されています。

私たちは、団塊の世代の大量退職に注目し、退職後の生活をどのように望んでいるのか、「セカンドライフ」をテーマに調査することにしました。